

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-1 生涯を通じた学習と社会貢献活動の推進
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	県立図書館事業		
目的	(1) 対象	県民（利用者）	
	(2) 意図	県民の読書活動を盛んにすることによって、生涯学習に対する意欲を高め、より良い生涯学習社会を構築する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> すべての県民が確かな知識・情報と読書の楽しみを得られる環境づくりを目指し、ヒト（図書館職員の育成）、モノ（資料提供）、コト（情報提供）の側面から、地域の図書館等を支援するとともに、図書館未設置地域への支援や、図書館ネットワークづくりを支援する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	図書貸出総冊数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		378,000	378,500	379,000	379,500	
式・定義	図書貸出総冊数	図書貸出総冊数	実績値	377,062	380,015	344,983	343,336		冊
			達成率		100.50	91.10	90.60		%
式・定義	指標名	レファレンス件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		9,850	9,900	10,500	10,750	
式・定義	レファレンス件数	レファレンス件数	実績値	9,835	10,235	8,012	8,022		件
			達成率		103.90	80.90	76.40		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	113,585	119,517
うち一般財源 (千円)	111,085	116,580

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 団体貸出冊数…全国に比べて多い。（全国平均19.1千冊、島根県96千冊：平成25年度調査）
- 個人貸出冊数…全国に比べて少ない。（全国平均391.5千冊、島根県240千冊：平成25年度調査）
- 蔵書冊数…全国に比べて少ない。（全国平均982.6千冊、島根県812千冊：平成25年度調査）
- 年間除籍冊数…全国平均並み。（全国平均4925.8冊、島根県4995冊：平成25年度調査）
- 書庫書架の収容能力…中国地区で2番目に少ない。（岡山県…230万冊、鳥取県…100万冊、広島県…100万冊、島根県…85万冊、山口県…77万冊）
- 情報収集の拠点となる図書館の活用を促進するため、職員の資質向上や、各種図書館サービスの向上が求められる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 公共図書館職員、学校図書館職員等を対象とした各種研修会を開催し、職員の資質向上に大きな成果があった。
- 公共図書館や、学校図書館職員の資質向上により、市町村や学校への団体貸出冊数が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 利用者の求めに応じて図書館職員が資料の検索・調査や提供を行うレファレンスサービスが、県民すべてに十分に認知され、活用されている状況とは言えない。
- 書庫書架の収容能力が小さいため、近い将来収容できなくなる。

②困っている状況が発生している「原因」

- レファレンスサービスについての情報発信が不十分である。
- 膨大な情報量の中から正確かつ迅速に特定の情報を見つけ出すレファレンス能力を有する職員が少ない。
- 蔵書は毎年増えていく中で、書庫書架スペースに限りがある。

③原因を解消するための「課題」

- レファレンスサービスについての情報発信が必要である。
- 県立図書館と県内図書館のレファレンス担当職員の育成及びレベルアップが必要である。
- 効率的に収容できる書庫書架の確保と蔵書計画の見直しが必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 広報媒体を活用して、レファレンスサービスを始めとした図書館サービスの情報を広く県民に発信していく。
- 司書等の研修（県立図書館職員ならびに県内図書館職員（公共図書館、学校図書館）研修機会の充実）、図書館情報システムの更新によりレファレンス機能の強化を図っていく。
- 固定式の書架を効率のよい電動集密書架に替え、収納スペースを確保するとともに、蔵書計画を見直し、不要な書物の除籍を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）